



国民的スポーツ (インド編)

1. はじめに

インドの国民的スポーツと言えば、「クリケット」。クリケットは、イギリス発祥のスポーツで、19世紀にインドに持ち込まれたと言われています。全世界の競技人口は、サッカーに次いで2番目に多く、インドでは誰もが夢中になっています。インド人にとってのクリケットは、ブラジル人にとってのサッカーのようなものです。

2. ルール

「バットを使ってボールを打つ」という点でクリケットは野球と似ています。しかし、野球好きの日本人には理解し難い複雑なルールが存在します。表1で、クリケットと野球のルールを簡単に比較します。代表的な項目を比較するだけで、クリケットが野球とは大きく異なることが分かります。

さらに、特異に映るのはピッチャー（クリケット用語では「ボウラー」）の投球スタイルです。打者に向かってボールを投げる点ではクリケットも野球も共通しています。しかし、ボウラーは、肘を伸ばして投げる必要があります。肘を曲げて投げる野球のピッチャーと比べると、随分窮屈に見えます。肘を伸ばしているためか、野球のようなノーバウンド投球は難易度が上がります。したがって、



【写真1：クリケットのゲームの様子】

ボールを転がす投球スタイルが一般的です。

バッターは、ボウラーが投じたボールを打ち返します。但し、野球と異なり、360度の方角にも打ち返すことができます。

バッターがアウトになる条件は2つ。バッターが打ち返したボールがノーバウンドで相手チームのフィールドプレイヤーにキャッチされる、又は、ボウラーが投じたボールがウィケット（バッターの後ろに建てられた3本の杭）に当たることです。

また、クリケットには、表1のワンデイマッチ方式以外にも、様々な方式があります（表2を参照）。

3. ワールドカップ

ワールドカップ（正式にはODI（One Day International）ワールドカップ）は、サッカーと同様に4年に一度開催されます。この大会はクリケット界で最も権威のある大会とされています。直近の大会は、2015年のオーストラリア大会です。オーストラリア大会には、全14カ国が出場しました。

筆者は、新婚旅行を兼ねて、このオーストラリア大会

【表1：野球とクリケットの比較】

ルール	野球	クリケット（ワンデイマッチ方式）
フィールドプレイヤー	9人	11人
道具	バット、ボール、グラブ（片手）	バット、ボール、グラブ（両手）
フィールドの形状	四角（ファウルゾーン含む）	円形、楕円、四角
勝敗の決定方法	9イニング終了時の得点	1イニング終了時の得点
得点の要因	ランナがホームベースを踏む。	2人のランナが安全地帯に侵入する。
イニング交替の要因	3アウト	10アウト又は300投球

【表2：クリケットの方式】

方式	概要
テストマッチ	1日2時間のプレーを3日間続ける。ランチタイムやティータイムが存在する。
Twenty 20	120球限定の1イニングで勝敗を決する。クリケットの試合時間の短縮を図って2000年以降に導入された新ルール。野球と同程度の試合時間（2.5時間程度）で終了する。



【写真2：クリケットのワールドカップ楽しむ筆者と妻】



【写真3：筆者が観戦したゲーム】

をメルボルンのスタジアムで観戦しました。もちろん、妻もクリケットの大ファンです。ちなみに、オーストラリア大会では、インド vs パキスタンという因縁の対決もありました（結果は、インドの勝利）。

4. プロリーグ

インドには、クリケットのプロリーグが存在します。このリーグは、「インディアン・プレミアリーグ」と呼ばれ、2008年に発足しました。インド各地に本拠地を構える全8チームが所属しています。

インドのプロプレイヤーの最高年俸は約3.6億円。インドの平均年収を考えると、インディアン・ドリームと言って良いでしょう。

ちなみに、インドでは、2012年に「スーラジザ・ライジングスター」というテレビアニメが人気を博しました。これは、日本で有名な「巨人の星」のリメイク版で、主人公は、プロ野球選手ではなく、プロクリケット選手を目指すというストーリーでした。

5. まとめ

クリケットはインドの国民的スポーツです。紳士のゲームと呼ばれるクリケットは、伝統と文化が豊かな競技です。イギリスで発

祥したクリケットは、インド国民のハートを掴み、アジアやオセアニアに広がっています。オーストラリアには「ビッグハッシュリーグ」、「チャンピオンズリーグ」といったプロリーグがあります。Twenty 20方式の採用により、試合時間の短縮が図られたことで、クリケットは、ますます普及していくと思います。

著者紹介

Mr. Kshittiji Malhotra (シティージ・マルホトラ)

Patent Agent, Global IP India所属。1984年デリー州生まれ。Indraprastha University LL.B（化学）及びDelhi University（法律）卒業。専門は化学。2006年IPキャリアスタート。2010年エージェント試験合格。2012年8月より現職。趣味はクリケット観戦、音楽を聴くこと。好きな言葉は「Live and let live」。ファーストネームの意味は「Point where earth and sky meet」。

<http://www.gip-india.in/>

編訳者紹介

木本大介（きもと・だいすけ）

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。モットーは、「正しいモノより楽しいモノを」。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>